

かばん屋の前を通ったり、下校中の小学生が背負っている色鮮やかなランドセルを見たりすると、数年前、娘のランドセルを買いに行ったときのことを思い出す。

一番下の娘の入学に備え、妻と娘の3人でかばん屋に買いに行き、3月という入学準備の時期だったので仕方ないだろうが、店員が近寄ってきて

「ランドセルをご購入ですか？」

「どのランドセルがいい？」

と娘に尋ねた。

娘は、迷うことなく

「これがいい」

と指さした。

その瞬間に、妻と店員は凍り付いた。娘が指さしたのは、今風のものすごく軽いタイプの「青色のランドセル」。

そこからの店員と妻と娘のやりとりが、私には面白かった。

「こっちにせんかえ」

「この色の方が似合いますよ」

とあの手この手で、赤色系統のランドセルを強く勧める店員と妻。

娘は、なぜ青色のランドセルがだめなのという表情を浮かべていた。

そして、私は望んでいないのに、

「父さんに聞いてみいや」

とまるで私に決定権があるかのよう、妻からパスが回ってきた。

私は、当然のように

娘のランドセル

「青色でいいよ。好きながを選びや」

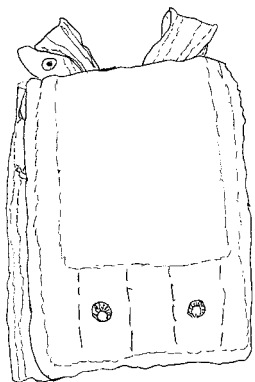
と答えると、期待している答えはそうじゃないろつという目で妻から見られた。それでも、私の心の中は、

「娘は保育で伸びやかに育っているんだなあ」とうれしい気持ちでいっぱいになっていた。

結果としては赤いランドセルを購入したが、

自分たちの子どものころは、男子が黒、女子は赤が当たり前時代だった。

今は、たくさん色のランドセルがあり、子どもたちは選ぶ楽しみがある。6年間大切に使うランドセル、大人の変な先入観なしで、好きなものを選ぶような社会環境に、もっともつとなっていくといいなあと思う。



(絵：娘)

お問い合わせは
人権啓発広報委員会

(880・6569) まで